



別府市亀川四の湯町の山地竜馬さん(40)、加奈さん(44)夫婦が、由布市に接する東山地区で黒毛和牛の放牧を始めました。

別府で放牧に挑戦

山地さん夫婦、黒毛和牛繁殖経営

- ① 山地さん夫婦が東山地区で放牧を始めた経緯はどのようなものでしょう？
また現在の放牧の状況は？

2人は以前、福岡県で畜産業を営んでおり、別府市出身の加奈さんと市内の適地を探す中であたり着いた。
敷地面積は約40㌔。昨年7月に19頭を放して事業を始め、現在は40頭の親牛を管理している。



東山の山中で黒毛和牛の放牧を始めた山地竜馬さん(右)、加奈さん(中央)夫婦。近くの衛藤三男さんから地元住民も歓迎している＝別府市東山

【別府】別府市亀川四の湯町の山地竜馬さん40、加奈さん44夫婦が、由布市に接する東山地区で黒毛和牛の放牧を始めた。草木の生い茂る場所を切り開いて牧場を整備。生まれた子牛を出荷する繁殖経営に取り組み。2人の挑戦を地元住民も温かく見守っている。

親牛40頭、住民も応援

- ② 東山地区での放牧について、2人は何と話していますか？

竜馬さんは「牛も歩きながら草木を踏み倒している。一緒に整備している感じ」、加奈さんは「自由に走り回る子牛を見ていると本当に幸せな気持ちになる。苦労も報われる」と話している。

県道別府一の宮線から山地区の方向に6㌔ほど進んだ「ねじ山集落」の山中に放牧地はある。昨年7月に19頭を放して事業を始め、10月に株式会社「宝牧舎」を立ち上げた。敷地面積は約40㌔。現在は40頭の親牛を管理している。
以前は福岡県で畜産業を営んでおり、別府市出身の加奈さんと市内の適地を探す中であたり着いた。竜馬さんは「敷地が広く、まだ草木の伐採ができていない場所も多い。牛も歩き回りながら草木を踏み倒している。一緒に整備している感じがです」と笑う。
放牧を始めた頃は、生育環境の変化などで福岡から連れてきた牛に不妊症状が出たこともあった。今は餌の工夫もあつて順調に進んでいる。
近くに住む衛藤三男さん(89)は、「若い夫婦が来てくれて本当にうれしい。長く続けてほしい」とエールを送る。
飼育を主に担当する加奈さんは「牛舎での飼育も経験したが、自由に走り回る子牛を見ると、本当に幸せな気持ちになる。苦労も報われる」と笑顔を見せた。
竜馬さんは地域課題の解決をテーマに掲げる社会起業家の顔も持ち、日常生活に疲れた人向けに「リフレッシュプログラム」と称した飼育体験事業も用意する。「休耕地の再生、雇用の創出など放牧で社会に貢献できることがある。これからは対外的な情報発信にも力を入れたい」と話した。(江藤嘉寿)

- ③ 地元の人たちは2人のことをどう感じていますか？

「若い夫婦が来てくれて本当にうれしい。長く続けてほしい」。2人の挑戦を温かく見守っている。

- ④ 竜馬さんは今後、どのようなことに力を入れたいと考えていますか？

「休耕地の再生、雇用の創出など放牧で社会に貢献できることがある。これからは対外的な情報発信にも力を入れたい」と考えている。